

流 廓中義入集全

13
2132
9



2132
9

自序

昔出ぬの歌り。かた良実が地地の民。
独りの娘をとり利。名をよめ考小町と
あむりひーぐ。世よめつがまて英人形り。
別良実と二世も三世もと録りし。
皆人書^{ちく}すめあんど。の志りり。宿願
の度まよや。あかき晴歌は葉子
治りり。ちりりも生の初は方形り



くは。勇山もさくさく牙出をとりくと
答ふあはれん。長安のあはれし改名し
小田ハちねとあなりし。ぐ。何屋しとて
川あやをさくし。世を語りし。
夫婦の中よこをさくし。けりし。ぐ。
けりあはれし。結^{まつち}ぬしよ。けりし。ぐ。
而て猿子似るや。て。猿丸と名付し
とけり。人王世二代。皇極天皇御時。

此草まゝは。時。内車を川系。子
あめ玉ひ。あや。けり。猿丸を。内系
あまより。係の。和玉ひ。おのかんむひ
さりと。年。あや。けり。たまひ。余り。子
絶の。玉ひ。や。けり。たまひ。けり。
て。時。あ。よ。め。と。けり。も。けり。あ。あ。けり。
あ。の。あ。よ。あ。けり。た。まひ。けり。あ。あ。けり。
あ。の。あ。も。あ。けり。た。まひ。けり。あ。あ。けり。

伊みじきおんし。そそを屋しぬ。
彼の寝おハ幸ぬる水ハ廊中
名石の目と。ちり人稀なりき。今幸
春朝露の梅よ鳥の鶯を^{さつろ}伝ふ。
奈んのはらぐ意地悪うぞ。鳴くや
あふれどきぬくはく。晴りぬ神も
まききぬくをちとあけ。そ^{つぎ}金後の
洞とく。磨きとく。彼の猿の

跡をききて。中と名あ寝おを。昔こ
ちのと。たより伝うぬ。彼の猿のおまひ。
毛のと希あふハぬを。君ん人持し
お)

安永八巳亥春正月

柿本晴丸述



弥ヤツ奇キ哉ヤ之ノ音コエ
 南ミナミ北キタ有アル耳ミミ
 御ミコ坐イマ乎コ之ノ詞コト
 左ヒダリ右ミダリ流ナガレ涎ハダ

名寄目録

柳

春風にあちけはる時勢の客
月兼子心をあはれ全盛乃君

糸

伊勢と源氏と珠の藤を抱ひ秋の抱
小町言返姫の付をうはせの懐の姿

を

吾妻の心よあまのふ曲情
なまめくたさへさへ

お

おもふ心くほはる姿や及せ乃
おの玉ちりさめこと

をの姿色々あ

あまのや

丁子や松をや

かまや

をの香はききる室のきき玉は

あまのや

あまのや

あまのや

けの神めききる室のきき玉は

あまのや

丁子や

陸のみのみききる室のきき玉は

あまのや

あまのや 巴や

あまのききる室のきき玉は

志は浦うみやのおねねちるあひあひ志川し橋はしの

ちのちかまや綾あやのてら龜かめ霍くわももおお歳としをを祿ろくふ

位ゐのの乃の水みづ々々志しけけ々々祭まつりくく介け

阿あままささいい来きるるははちちやや都みやこ路ぢののまま次つぎ

鳥とり狩かりややたたりり水みづ男おとこ子こ者もの禮れいとと誤ごらら

松まつ凡ふもも神かみ浦うら寺てらささいい極ごく夜やのの次つぎ女めハハ日ひ

村むら雨あめととハハちちのの跡あとのの遠とほ水みづ々々名なハハ

ぬぬ水みづ々々ぬぬのの後あと引ひききままささららハハ志しのの浦うら

是こゝにこゝままささいいぬぬののよよああみみくく春はる日ひ昔むかし

口くちののむむ々々々々のの名な深ふかくくワワのの葉は摘と

神しんをかかかみみをむむむのハハハ

一いをせせせるる緒緒山山尾尾丁丁山山おおとと心心

新しん水水〜〜河河衣衣の河河河の大大大裡裡

雞けい文文も都都都よりりりてて雞けい町町五五社社をを

河河〜〜ぬぬるるちち町町やや子子保保をを河河

丁丁子子ややおおけけ河河尾尾もも八八木木をを込込〜〜綴綴糸糸〜〜分分

寺てらああ〜〜河河名名ハハちち町町の双双双神神洗洗いい

深ふか川がはもも河河〜〜河河名名をを出出渡渡の出出出河河の心心心

名なをを河河中中河河氏氏の色色色乃乃河河永永もも

河河中中河河の中中中河河貝貝持持〜〜河河

おらうのあや栲の小島うのまの葉を

世よあふさやはこをはさはのはの様よ

あはと東人梅をとはんやあ

あのぬ別の半をあまるあらまる

二の浦をあまるあらまるあらまるあらまる

くあらまるあらまるあらまるあらまる

かあらまるあらまるあらまるあらまる

ああらまるあらまるあらまるあらまる

ああらまるあらまるあらまるあらまる

ああらまるあらまるあらまるあらまる

写男浪草^{のきをまき}に^たて^つて^て雛^{丁子や}の

田^たの^りあ^らる^る心^こと^とむ^むね^ねハ^ハい^いさ^さを

ふ^ふの^のあ^あは^はさ^さら^らる^る急^{あひや}な^なの^の梅^う乃

を^をう^うる^る吹^ふき^き色^{いろ}緒^{いと}山^{やま}の^の丸^{まる}ね^ねが^がて

ふ^ふ世^よふ^ふ竹^{たけ}の^の春^{はる}霞^{きりぎりす}

をの姿新色名寄

松^{まつ}の^の井^いよ^よけ^け君^{きみ}志^しけ^けふ^ふ春^{はる}乃^の

初^{はつ}凡^ふる^るを^を宿^{しゆく}子^こ初^{はつ}く^く名^な山^{やま}

夕^{ゆふ}妙^{めう}の^の亭^{てい}坊^{ぼう}止^とま^まの^の坊^{ぼう}の^のこ^こを^を

凡^ふお^おる^る乃^の五^ご々^々の^の糸^{いと}渡^{わた}

まげさづるやしあふさや織あふさやハ照あふさやくあふさやさあふさや沙あふさや

ああふさや姫あふさやの色あふさや香あふさやああふさやるあふさやぬあふさやそあふさやしあふさや織あふさや乃あふさや

そのあふさやまあふさやをあふさやのあふさやかあふさやきあふさやひあふさやよあふさやああふさやげあふさやのあふさや雛あふさや霍あふさや

つあふさやのあふさや産あふさやたあふさやまあふさやゆあふさやめあふさやぬあふさや二あふさやのあふさや浦あふさや也あふさや

まあふさやうあふさや浦あふさやのあふさやうあふさやらあふさやしあふさやしあふさや浦あふさやのあふさやまあふさやらあふさやのあふさや名あふさや也あふさや

位あふさやのあふさや戸あふさやのあふさや仲あふさやよあふさやるあふさやはあふさやもあふさやるあふさや山あふさやのあふさや節あふさや日あふさや

後あふさやのあふさや錦あふさや戸あふさやをあふさやらあふさやりあふさやとあふさや斗あふさや糸あふさや丸あふさやのあふさや

まあふさやるあふさや下あふさや山あふさやまあふさやんあふさや山あふさやよあふさやくあふさやのあふさやらあふさやもあふさや深あふさやしあふさや命あふさや

深あふさや水あふさやハあふさやそあふさやまあふさやるあふさや深あふさや山あふさやのあふさやをあふさやむあふさやさあふさや深あふさやのあふさや

まあふさやるあふさやみあふさやさあふさやらあふさやらあふさやのあふさやむあふさやさあふさやくあふさや歳あふさや乃あふさや

床のりりー 後いよくむ 津川のつがひ

糸子るるら 何らあけさねのひもるるまのひ

の梅乃めふささくよ 雪ななぬ

ね川が谷の戸 雪く初音色

妻のまのるー さよら半をま

ぬ本ののりる 都路のちあ町は

都と町ニの町は 神をいぬは

姫あまのの露吹みさま玉菊もま

ぬ水々 宿りう東屋のくね

ぐもま 志々 川次丸が 加保水ハ

あめさや
朝人も名ハあめさやささしのちあめさやにや

ハ声の鶉のさぬくもはさぬ

るよしのあけかゝるくことぬ

夜ふあめさや龜あめさやの佳の孫あめさやぬ江八唐崎の

ぬゆそるさまより杉の枝あめさや下

雨雀の尾かく中濱の破るは

浪よ垣衣もぬゆよそぬあめさや折し

色ハあめさやまじ。かゝるぬ春の五丁

まじ
在衛

春日霞吉日樓名寄

丁子チシヤの
凡ト世ニさるる歳トあけ春ノさよ色カかぬハ

枝エもト新ニくハやハ水ミ海ウのノ汀トはハ花ハ

仙セ多クのノ齡ニはハ川ノくハ二ニ重ニ腰ト

そのノ薄ク葉ノのノ尉ト斗トあハさハくハ

苔コむクとト岩ノよハ枝ノ葉トてハあハけハ

一ヒ帯トるハもトちトくハ斜ニよハむクもトあハけハ

花ハりトかけクくハ小ノ櫃トのノ下ノよハあハけハ

宝ホ花ハりトくハくハのノ千ニ一ニつト実トよハ七ト福ト

かハらハひトぬクるハ千ニ花トのノぬトのノあハけハ

色シらハよハめトむクるハうハ年ト在トるハ越ト路トのノ

高もめざむくやその唐錦

きりや 鳳王のなをを護とら大丸や 兵肢を

大宮人の初子の日をるの神小松や りのなや

と世よちむひーや ぎぶる葉ごしの

こまや 露のきさめさて川内や 流ハ

君が代は鬼も十六夜角九や三

戸さぬあけの終田村や 麻山踏分山口や

そめ 初て何をもぐいせや 形る神のあまの

ちどめあそ妹いせや 脊を略す

いせや むまー國るのち井よかくいせや いちさる

月の老りむさしや 星の照りほろ 朝あさの

日ひも打ちうちぎくそ 遠まほの

るる水みづの池いけの係けいと

涼すずみみの夜よ木き立た

るる水みづの路みちと

朝あの春はるよ名なああーー ちちのの流ながるるよよ

白しろい吹ふちちるるも神かみほほの絶た

へへちちるるハハ家いえのの池いけととううてて

洞ほらままぬぬいろいろハハかりかりととままーー

曾そ日ひ根ねの岩いわるるよよ 陵たかねふふすす楮かみはは

葉はのなや うりや
葉はのなや かのながめく日の丸

のなの日の本ほんからかるる形かたちし

夫おのなのハなまささく

今いまのなのなハなまささく

形かたちし七しち堂どうの上のうへのなかかく

格かく文ぶんハはえ西せい來らいのなんなのな夜よ
らん たん ん ん

かかのなのなのなのなのなのな

ああのなのなのなのな

灸あり

くさくさういよか

たうりいこ

いんか一ぬ

あ業うはは

三つらの極

むのうり客よ花里の魂母を志めし
たるまき長神ハ。六万坪よ埋く録る
福ある人あつた土の果。め即よそ見し
あるおれといふハ。一件もつたぬ。所
客とち者ハ。命のう二夏目の山崎を
あうり出せ。花娘よあはハ。め即のる
か。はる大あまをる若のこと。なはよ

初なるとしに。帆掛舟の根よゆえし
て来り。客も一室しきあきく屋くめし
るも。うが彼の。と軍をてむしぐ勇
あはれも。軍中よ。威を張あたま能と。
キウ角人がるも。深さいむし。うしを
何うおしる。一控よあまが南世。と南世が
引色里のちん白のえ。比もさく張ら
ぬ。我ら。我ら。うしきが。川にも持いか

きいが。ふしと。おし。日夜。新なるを
確き。さう。ハ。一。さう。うし。かき
系ると。う。の皮。親よ。と。あ。御持
は。を。ま。う。ぬ。いて。か。か。き。の。跡。の。ま
く。の。せ。射。大。つ。を。ま。う。と。建。入。て。坐
屋。を。と。ん。ち。も。の。竹。今。の。け。く。さ。う。さ。う。し。
懐。中。より。茶。子。人。形。を。出。し。か。き。て。
始。り。し。し。大。音。よ。ま。り。し。し。中。の。野。の

香も。ワルもくし。かけを。ぎんくが。中
 先生の申も。考う。あり。おる方の。女。中
 我の。一。先。あし。ま。あ。出。出。を。子
 人。形。を。を。さ。く。し。お。よ。入。お。世。に
 子の。印。が。揃。う。小。娘。と。出。を。を。
 ま。う。う。う。し。聴。う。そ。う。を。山。を。お。ま。
 世。と。同。し。ひ。ま。が。ま。る。世。廓。子。御。行
 し。り。あ。御。の。何。を。お。ぶ。は。な。る。考。後
 去。し。し。り。さ。水。と。いつ。い。御。川。さ。ん。八。曲。輪。を
 出。あ。ん。し。し。し。ふ。何。ま。入。お。ま。し。し
 間。水。に。ま。山。し。ふ。山。猿。が。身。法。志
 あ。ん。し。し。し。さ。ら。や。い。十。大。声。を。揚。て
 の。ア。く。し。し。同。し。ア。を。ま。け。い。お。ま。の。女
 神。好。を。借。し。し。ラ。ヤ。血。途。い。あ。ん
 し。し。あ。ま。む。し。ま。ま。い。あ。ん。し。し。る。麻
 ら。し。し。い。ま。ま。し。し。ア。ヤ。ま。麻。し。し。し

喜ひ。争ひも遠くぬ。母もいひつゝせぬ。
 ぬしをさぐり来がさうなるくわの
 あさくら川へあんのり来のさひなわ
 ちゅうあつんしよ。あましくよきさんせん
 およししふき。イヤトヨぬしよのぬき
 初令いよての中。名簿でねんの要まゝかん。
 転ぐりあまを。身をも堀くよらんく
 きのちや川や。こゝろにぬか川竹

ちよあつん。き位置なり。流る川に
 舟しや喜ひう。そよめんじや。首の
 喜ひ口あ。の。盲人よ身流るといふよ
 流るの身を流ると。ぬしよんか
 知らう。二代目の川が。年よ似合ぬ
 流るの中。そよめるのわけあ。
 きの川を。さうおねははは。はは
 くねあ。お茶のまよさう出し

いも出まゐるおまゝ〜。世書いよと
あ〜らあよ。とらさ〜。けらぬあ〜と
あ〜と世の中〜。何のえん〜あひ
あ〜が身てさ〜。おとよめ。出〜ら
はま。はてハ食を喰ひ。喰〜はは。
あ〜鳥うりてのつぬりハあ〜と。火海を交
の馬と。私かはぬりとてハらな〜ぬ
た〜の〜。音あ人眼あ人

の世の中。あ音人ハ。あ人の中が音人
は。皆今ああ。あ今あが音後
あ音ああ。あ〜と音あ音の
あ音ああ。音あ〜と音あ〜と。
あまあや。あ〜と音あ〜の附
あ〜と音あ〜。甘〜と音あ〜。
あ上あ〜と音あ〜。あ〜と音あ〜の
あ〜と音あ〜。あ〜と音あ〜。

三
ちのよき腰子洞を研ぐ。ぞんあ習
がまわても。尺むくまもあくまわぬ。
松山足およ出しても。盲人へ連累を
ハ。おぼろぎ雷のひ。交向さあむ水鼓が
咽くもあつても。ちよ。口をぬけて後
てあち出る者を。身形をの夫の
口惜ふりあやうぬり。いあこもも
まご。拾ふあゝ向の人や。紺吉更の

荻子清をいつかおとあへハ。新が
素^ナ足子ゆこ時。名を尺布をまま
とふ。あをどおし。松の佐といふ
オで。ゆんとして。見識がさあ。
眼めらあつて。倒しもあつたまわぬ。
る中さやる時。余う大さくどや
あ。あはら子かのア。あつて中
の(上ト。あてに居ても。大さな声であつ

あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。
あつらふやうに。怖くはるるおの。

と時の標子。赤とをきり目ひのみをり
お赤ををしくおひ。きとで隅へを
りて。お脚り斗り。かん物ををきり
まよ。おひ。客ををちまよ。きり。おひ。
こま。おひ。おひ。日本て。おひ。
おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。
おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。
おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。
おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。
おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。おひ。

三十五
をり。ふりあると。精田。種。中。の。赤。を
まう。ても。存。て。ま。め。の。又。種。を
も。せ。よ。返。を。ま。め。茶。や。種。を。ど
う。よ。返。を。ま。め。と。ま。で。返。を。ま。め
よ。い。ま。い。の。ハ。先。き。種。は。も。種。よ。種。り
ま。い。と。ま。め。さん。け。種。ハ。世。所。と
あ。り。ん。と。今。ま。さん。に。ぶ。と。あ。ん。と
種。と。ち。種。さん。の。か。ん。と。一。ハ。か。え

ぞんや。種。が。ふ。で。さん。と。と。と。と。と。
味。増。和。た。あ。も。ま。い。た。め。と。と。あ。
よ。ハ。あ。い。ま。の。ま。の。は。あ。い。と。と。あ。
一。の。よ。と。あ。よ。と。と。一。年。が。と。あ。と。
す。佐。の。種。が。は。あ。い。の。と。と。あ。の。種。が。
あ。り。よ。や。と。ま。め。と。ぬ。う。け。種。を。と。あ。種。め
ま。め。と。ま。め。は。と。あ。け。ハ。ち。ま。種。と。ま。め。の
ま。め。と。ま。め。と。ち。ま。と。あ。ま。め。と。と。あ。よ。

糸の夜着の。きこめんのとら。おおるごと
りももの。又替つても足さや川サアも
少時。程々。緋や糸の夜着がめ被かぶり
透々々。おろ。危つをり。緋袴。西位を
まよはせて。むしや。程々。が。美次町
をんそ。つら。ま。は。て。あ。が。世との。海
國。よ。成。ら。あ。と。く。玉。章。ハ。ま。き。ん。ば。い
候。ハ。せ。い。と。も。空。を。あ。大。平。し。り

ま。る。ま。ま。ハ。答。も。丁。と。解。ひ。糸。ま。海。ひ
ま。ま。い。よ。く。ま。あ。実。ら。ぐ。ん。と。上。ハ。私。が
よ。め。ね。ま。ま。い。ま。も。ま。い。町。を。あ。や
家。を。も。使。り。ま。の。り。て。も。清。出。ま。ら。ま
あ。る。い。よ。く。身。後。し。て。ま。ま。と。ま。あ。ん。え。ま
あ。る。り。ま。時。の。ふ。仕。合。と。り。あ。と。の。で
あ。ら。ま。る。け。ね。ま。ゆ。の。判。こ。口。事。で。ま。ん
つ。ま。ま。い。り。り。あ。ま。ま。い。ま。い。の。ま

空ろくろくまをぬけ。上ねり。そめまが
 むら。十年廿十年海り。むら。むら。
 かの。むら。むら。むら。むら。むら。
 り。むら。むら。むら。むら。むら。
 後口をきまり。てら。むら。むら。十年か
 十年。むら。むら。むら。むら。むら。
 むら。むら。むら。むら。むら。むら。
 むら。むら。むら。むら。むら。むら。

二

五

六

